

# 目に見える闘いを!! 前門正C 金大中死刑阻止全学集会へ

金大中氏を死なせてはならない。いまや彼は韓国人にとって唯一の可能性である。

金大中氏の運命・死刑執行をめぐる動きは極めて緊迫している。既に「緊急アピール」において明らかにした様、全斗煥は12月死刑判決一年以内処刑の腹を固めており、日韓両政府はそれを合意した上で着々と体制を固めつつある。

当面12・5へ向けて、いかなる闘いをつくり出すことができるのかで全てが、金大中氏の生死が決まる。それも主觀的“満足”的“闘い”ではなく、目に見える腹の罠にによる、どんなに小さくても、全斗煥や日本政府に対して着実に打撃となるものでなくてはならない。そんな下をうなことが-----。しかし、どんな小さな罠でもそれが有効なものであれば、それによって着実に全斗煥や日本政府を包囲する大きくななりとなる事を信じよう!この京大に於いてその収納の場となるのが、判決の予想される12月5日の全学集会だ。それへ向けて、全てのクラスから、それが無理なら2人でも3人でも自分達の闘いをはじめよう!

## 1. 先ず学習しよう

クラスやクラス有志で、我々の出しているビラや資料、それが不適なら教養部正面前で販売しているパンフや本をつかって学習しよう。

## 2. 討議や訴えは、1人でも2人でもとにかく書きまくりはりまくろう。

学習して納得できただければ、どんなことでも「議論」としてクラス掲示板などにはり出そつ自分

T・K生

達の考えを他の人に知ってもらう、訴える、それに付けても立派な闘いだ。

## 3. 12・5集会へ クラス討論会を、そしてクラス・ストライキ、1人でも授業放棄を宣言して参加しよう

決議などをあげることができたならば次は自分達の体を動かすことだ。12・5「死刑阻止」のクラス・ストライキという言葉が屬する「自主的授業放棄」でもいい)その上での集会参加などではれば素敵だ。その時も肝心なことは、自分達のやることをビラでもポスターでもいいから公表すること。公明正大。自分達で決めて自分達でやることは全部他の人に知つてもらう。それはいいことだし、楽しいことだ。ニラして闘いの輪が広がる。

ビラやポスター書きの相談、道具の調達の相談いろいろよい。全部教養部正面のテニトへ相談しよう。あるいは、様々な創意をテニトへ持ち寄ってテニトを交流の場としよう。

そして12・5集会へ参加したら、我々はこんなことをやってきた、こんなことをやるべきだと、どんな人と言しよう。

とにかく今は、1人1人がいいことはいい、悪いことは悪いと考え、発言し、行動することが大事だ。そしてその力をひとつに集めることができ金大中氏らの命を救うことに努めるのだ。

金大中死刑阻止をめぐる緊急行動実行委員会